

地域自主組織 『楽しもなかやま』  
 地域デザイン事業に  
 「楽しもビオトープ」が加わりました

下中山地区には先輩たちの残してくれた自然を活かした文化ゾーンがあり、『ふるさとフォーラムなかやま』と名付けられています。ここは四季彩園、町立図書館や中山温泉といった施設を含む一帯になりますが、その一角に『楽しもなかやま』の拠点施設である友好館があります。

さて、皆さんは『ふるさとフォーラムなかやま友好館』のキャッチフレーズをご存じでしょうか？

〈なんにもないところにある、なんでもある場所〉です。

なんでもある…。そのひとつがホタルの生息する小川です。昔は町内の色々な場所で見ることができたホタルですが、近年は生息する場所も減ってきています。

そこで、楽しもなかやまでは、かつてホタルが生息していた環境を取り戻そうと、友好館そばを流れる小川を中心とした空間をビオトープ（注）として整備してきました。

取り組みとして、まずは昨年2月に小川周辺の現況を確認するための散策を行いました。案内を地元の方

にお願ひし、ホタルの説明を鷲見教育長にさせていただきました。

散策を通じた実態把握とあわせて、南部町金田川への視察を行いました。金田川は、地元の方々の努力でホタルが舞い戻ったホタルの名所です。関係者の体験談から、取り組みに対するの熱意を肌で感じることができました。



▶小川の流れをせき止めている草を取り除きました

3月には鳥取県ホタルネットワーク副会長の米澤正美先生をお招きして、ホタルの生息についての学習会を行いました。楽しもなかやま委員のみならず、保育園の先生や地元住民の方々など多数の参加があり、皆さんの興味関心の高さを実感しました。

そして、ビオトープとして整備した小川にどれくらいの数が生息しているのか夏に確認したところ、ピークで160匹以上のホタルが飛んでいるのが確認できました。

以降、現状を維持しつつ、更に多くのホタルが生息しやすい環境を目指し、夏にはホタルのエサとなるカワナを、子どもたちと一緒に採取し、小川に放ちました。

また、小川のほどよい流れもホタル生息の重要なポイントとなりますので、皆で小川内に生えている余分な雑草を取り除きました。

今後もしも引き続きホタルの生息を学びながら、夏にはホタルが無事に成虫となり、柔らかな光を発しながらたくさん飛び回ってくれることを願ひ、一年を通じて小川一帯を守っていく活動に取り組んでいきます。

楽しもビオトープ

この小川では、ゲンジボタルとヘイケボタルの生息が観察されています。私たちの暮らしに身近なこの場所にホタルが飛び回り、その光の情景が豊かなところを育み、思い出となり、人々の憩いの場となりますように。

ホタルの幼虫を保護するため、3月末より7月末まで  
 斜面下（小川のふち）への立ち入りはおやめ下さい。

ご協力お願いいたします。

地域自主組織 楽しもなかやま

▲ビオトープ付近に設置した注意喚起の看板

（注）ビオトープ：色々な生き物が  
 共生している生態系や空間の  
 ことをいいます。

◆問い合わせ先

楽しもなかやま・友好館

9時～17時（月曜定休）

☎0859-49-3020